

日本地質学会第121年学術大会（2014鹿児島大会）講演プログラム（口頭）

■9月13日（土）午前

会場	第2会場（121）	第3会場（131）	第4会場（122）
	T1. 火山島弧の造山運動：沈み込み、付加、衝突およびリサイクリング 座長：ハフィーズ ウル レーマン（1-5）、岡本和明（6-10）	T9. 平野地質 座長：ト部厚志（1-5）、川上源太郎（6-9）	R16. 古生物 座長：奈良正和（1-3）、生形貴男（4-7）
9:00	9:00 T1-O-1 伊豆衝突帯における海洋性島弧の大陸地殻への改質. 齊藤 哲 9:15 T1-O-2 丹沢トータル岩中の低いジルコン酸素同位体比が示唆する島弧下部地殻内の海洋地殻の痕跡. 鈴木和恵・澤木佑介・北島宏輝・John W. Valley・服部健太郎・平田岳史・丸山茂徳 9:30 T1-O-3 泥質片岩の延性度較差：地震波のブライトスポットに関する構造岩石学的根拠. タツヤバ マティーン・山本啓司・ハフィーズ ウル レーマン 9:45 T1-O-4 徳之島中央部の超マフィック岩類を含む変成ユニットのデュープレックス. 上田脩郎・山本啓司・寺林 優 10:00 T1-O-5 沈み込んだ蛇紋岩海山（海洋性島弧）に記録されたスラブ内脱水反応. 岡本和明・福村成哉・石森千晴 10:15 休憩・座長交代 10:30 T1-O-6（招待） Sr-Nd-Hf Isotopic Characterization of Granitoids in Accretionary Orogens of Asia and Implications for Crustal Development. Jahn Bor-ming・Tong Ying・Wang Tao・Okamoto Kazuaki・Valui Galina・Usuki Masako 11:00 T1-O-7（招待） 付加体形成と地球内部進化. 丸山茂徳 11:30 T1-O-8 海洋マントルから島弧マントルへ：伊豆—小笠原—マリアナ弧創成期のウェッジマントルの温度組成構造の発達過程. 海野 進・金山恭子・北村啓太郎・石塚 治 11:45 T1-O-9 高温沈み込み帯の進化過程—オマーンオフィオライトの例—. 草野有紀・北村啓太郎・海野 進・足立佳子・宮下純夫・永石一弥・石川剛志 12:00 T1-O-10 日本のブルーム型及び受動拡大型オフィオライト. 石渡 明	10:15 T9-O-1 完新世後期における石狩海岸平野の堆積システム：deflected wave-influenced deltaとしての理解. 川上源太郎・仁科健二・嵯峨山積・木村克己・廣瀬 亘・加瀬善洋・大津 直 10:30 T9-O-2 下総台地北部の地下に分布する更新統下総層群木下層の層相分布と地盤振動特性. 中澤 努・坂田健太郎・長 郁夫・野々垣 進・納谷友規・本郷美佐緒・中里裕臣 10:45 T9-O-3 千葉県北西部東京湾北緑地域における下総層群の層序. 納谷友規・坂田健太郎・中里裕臣・小松原純子・中澤 努 11:00 T9-O-4 千葉県船橋市の埋立地における沖積層の堆積相と堆積環境. 小松原純子・中島 礼・納谷友規 11:15 T9-O-5 駿河湾北部沿岸域の平野における地下地質調査. 石原武志・水野清秀 11:30 T9-O-6 ボーリングデータベースからみた関西圏の地盤特性. 北田奈緒子・井上直人・竹村恵二・三村 衛・大島昭彦 11:45 T9-O-7 若狭湾沿い海岸平野におけるトレンチ、コアリングによる津波堆積物調査. 山本博文・ト部厚志・佐々木直広・高清水康博・片岡香子 12:00 T9-O-8 福井地域の海岸平野における津波堆積物調査. ト部厚志・山本博文・佐々木直広・高清水康博・片岡香子 12:15 T9-O-9 屋久島北東部、小瀬田海岸付近に認められる7.3ka鬼界カルデラ噴火津波の痕跡：成因と保存過程に関する仮説. 七山 太・前野 深・中川正二郎・佐々木洋之・面 将道・下司信夫・渡辺和明・成尾英仁・小林哲夫	9:30 R16-O-1★ 採集者バイアスが標本レベルの多様性評価に及ぼす影響. 生形貴男・山下修平 9:45 R16-O-2 南東フランス、白亜系海洋無酸素事変層準の黒色頁岩のパリノモルフ分析—海洋基礎生産者に注目して. 安藤卓人・沢田 健・高嶋礼詩・西 弘嗣 10:00 R16-O-3 岐阜県山県市円原の美濃帯、舟伏山石灰岩から産出した扇形の殻を持つ微小なフズリナ類とその生息環境について. 太田泰弘・佐野弘好・杵山哲男 10:15 R16-O-4 ジュラ紀後期の <i>Epidiceras</i> （巻貝型厚歯二枚貝）の産状とその進化的な意義について. 柿崎喜宏 10:30 R16-O-5 Ichology and palaeoecology of a <i>Hillichnus</i> -like trace fossil from Jurassic tidal deposits of the Sakamoto Formation, Kumamoto Prefecture, Southwest Japan. Nara Masakazu・Hirabayashi Ayuko・Komatsu Toshifumi 10:45 R16-O-6 Response of reef corals to Late Quaternary climate changes in the Great Barrier Reef: The Ribbon Reef 5 and Boulder Reef deep drill cores revisited. Humblet Marc・Webster Jody M. 11:00 R16-O-7 新潟県笹ヶ峰の標高1230 m地点から発見されたナウマンゾウ化石とその意義. 近藤洋一
			R17. ジュラ系+（The Jurassic +） 座長：松岡篤（1-2）、近藤康生（3-4）
			11:30 R17-O-1 高知県佐川地域に分布する鳥の巣層群谷地層の潮汐堆積物と化石群集. 近藤康生・内池 友・奈良正和 11:45 R17-O-2 南イラン、ザグロス山脈ネイリズオフィオライトのオブダクション. 久田健一郎・鎌田祥仁・荒井章司・Monireh Poshtkoohi 12:00 R17-O-3 日本産ジュラ紀最前期放散虫化石群集の特性. 石田直人 12:15 R17-O-4 球面上のチューリング・パターンとシリカ殻の形成—中生代放散虫 <i>Pantanelium</i> の実体模型と数値実験をもとに. 松岡 篤・吉野 隆

※講演番号は、シンポジウム (S)、トピックセッション (T)、レギュラーセッション (R) のそれぞれに、ポスター (P) / 口頭 (O) の記号と各セッション内での通し番号を付与しています。

※講演要旨とプログラムとで発表題目や著者氏名が異なっている場合、講演要旨を正しいものとします。

※太字氏名：代表発表者。★印：ハイライト（本誌 p.(11) を参照）。（招待）：招待講演。（招待：国際）：学術交流協定を締結している海外関係学協会からの招待講演。

日本地質学会第121年学術大会（2014 鹿児島大会）講演プログラム（口頭）

■9月13日（土）午前

会場	第5会場（124）	第6会場（125）	第7会場（212/213）
	R18. 情報地質とその利活用	R9. 堆積物（岩）の起源・組織・組成	R25. 鉱物資源と地球物質循環
	座長：齋藤 真（1-3）	座長：野田 篤（1-3），太田 亨（4-7）	座長：加藤泰浩（1-3），野崎達生（4-7），藤永公一郎（8-11）
9：00	<p>9：00 R18-O-1 地質文献データベース（GEOLIS）APIの公開と地質文献データの活用。内藤一樹・菅原義明・渡辺和明</p> <p>9：15 R18-O-2 地質情報ウェブマップサービスから提供される地質図画像の任意領域切り取りツールの試作。野々垣進・根本達也</p> <p>9：30 R18-O-3 海洋鉱物資源データの統合解析の実用化に向けて。北田数也・笠谷貴史・町山栄章</p>		
	T6. 三次元地質モデル研究の新展開		
	座長：高野 修（1-3），升本真二（4-5），根本達也（6-8）		
	<p>10：00 T6-O-1 3次元地質モデルを利用した研究手法の提案。星加夢輝・豊田守</p> <p>10：15 T6-O-2 標高データの画像タイル化とWebGLによる可視化。西岡芳晴・長津樹理</p> <p>10：30 T6-O-3 三次元表層地質モデルの信頼度の評価・表現手法の検討。升本真二・根本達也・野々垣 進</p> <p>10：45 T6-O-4（招待）★ 沖積層の3次元モデルの構築とその意義。石原与四郎・中尾健人</p> <p>11：15 T6-O-5 ボーリングデータ解析による東京低地域の浅部地下構造モデリング：沖積基底面モデルとボクセルモデルとの統合。木村克己・花島祐樹・西山昭一・石原与四郎</p> <p>11：30 T6-O-6（招待）★ 石油の探鉱開発における地質的不均質性と不確実性の定量化。守屋俊治</p> <p>12：00 T6-O-7 三次元堆積体プロパティモデリングにおける堆積学的規制要素のインプット：進展と動向。高野 修</p> <p>12：15 T6-O-8 長岡サイトのCO₂貯留層の堆積学的特徴と含泥率の三次元地質モデリング。伊藤拓馬・中島崇裕・薛 自求・千代延 俊</p>	<p>10：45 R9-O-1★ 仙台湾における福島第一原発事故由来の放射性セシウムの分布。山田 努・箕浦幸治・平野信一・佐藤慎一・加藤大和・杉原真司</p> <p>11：00 R9-O-2★ 熊本県御所浦・牛深地域上部白亜系姫浦層群の未固結変形。木村祐太・竹下朝日・佐野弘好</p> <p>11：15 R9-O-3 富草層群に産する燐酸塩質岩。森清寿郎</p> <p>11：30 R9-O-4 石狩炭田地域に産する菱鉄鉱質岩石の形成—とくに鉄の起源と沈殿過程について。浅野有希・日下部智也・森清壽郎</p> <p>11：45 R9-O-5 第三紀泥岩の分光測色（予察）。辻野 匠・柳沢幸夫・工藤 崇</p> <p>12：00 R9-O-6 紀伊半島牟婁付加シークェンス市鹿野構造ユニットの砂岩組成から推定される後背地。別所孝範</p> <p>12：15 R9-O-7★ テチスヒマラヤの上部三疊系に記録された大陸風化状況の変化。吉田孝紀・宮嶋千恵・志賀由佳・葉田野希</p>	<p>9：30 R25-O-1（招待）★ 地球環境変動に伴う元素の生物地球化学循環変動：全球凍結とマンガン鉱床形成。田近英一</p> <p>10：00 R25-O-2★ 初期太古代縞状鉄鉱層と鉄同位体値。小宮 剛</p> <p>10：15 R25-O-3★ 三疊紀後期隕石衝突イベントにおける生物生産変動と放散虫群集組成の変化。尾上哲治・佐藤峰南・池原 実・高谷雄太郎・野崎達生・藤永公一郎・加藤泰浩</p> <p>10：30 R25-O-4 南鳥島EEZのレアアース泥鉱床の開発を目指して。加藤泰浩・鈴木勝彦・中村謙太郎・藤永公一郎・高谷雄太郎・町田嗣樹・安川和孝・大田隼一郎・野崎達生・飯島耕一・岩森 光</p> <p>10：45 R25-O-5 南鳥島EEZ全域のレアアース泥およびマンガンノジュールの分布状況把握に向けた多角的音響探査。町田嗣樹・中村謙太郎・藤永公一郎・飯島耕一・鈴木勝彦・沖野郷子・本荘千枝・及川光弘・加藤泰浩</p> <p>11：00 R25-O-6 南鳥島EEZ内におけるレアアース泥の鉱物学的特徴。大田隼一郎・高谷雄太郎・藤永公一郎・中村謙太郎・安川和孝・町田嗣樹・飯島耕一・鈴木勝彦・岩森 光・加藤泰浩</p> <p>11：15 R25-O-7 南鳥島EEZで発見されたレアアース泥の地球化学的特徴。藤永公一郎・加藤泰浩・中村謙太郎・鈴木勝彦・高谷雄太郎・町田嗣樹・安川和孝・大田隼一郎・荒木修平・劉漢捷・宇佐美諒・牧 亮太・原口 悟・飯島耕一・町山英章・野崎達生・西尾嘉朗・臼井洋一・山崎俊嗣</p> <p>11：30 R25-O-8 Os同位体層序による南鳥島周辺のレアアース堆積物の堆積年代。鈴木勝彦・野崎達生・飯島耕一・高谷雄太郎・藤永公一郎・加藤泰浩</p> <p>11：45 R25-O-9 南鳥島EEZ東部に分布するMn団塊のOs年代決定。野崎達生・後藤孝介・高谷雄太郎・鈴木勝彦・下田玄・木村純一・常青・町田嗣樹・石井輝秋・清水健二・平野直人</p> <p>12：00 R25-O-10 化学リーチング法によるレアアース泥からのレアアース元素回収—工学的開発を念頭に置いた最適条件の検討—。高谷雄太郎・平出隆志・藤永公一郎・中村謙太郎・加藤泰浩</p> <p>12：15 R25-O-11 独立成分分析による太平洋深海底堆積物の地球化学データ解析：レアアース泥形成機構に対する示唆。安川和孝・中村謙太郎・藤永公一郎・大田隼一郎・高谷雄太郎・町田嗣樹・岩森 光・加藤泰浩</p>

※講演番号は、シンポジウム（S）、トピックセッション（T）、レギュラーセッション（R）のそれぞれに、ポスター（P）/口頭（O）の記号と各セッション内での通し番号を付与しています。

※講演要旨とプログラムとで発表題目や著者氏名が異なっている場合、講演要旨を正しいものとします。

※太字氏名：代表発表者。★印：ハイライト（本誌 p.(11) を参照）。（招待）：招待講演。（招待：国際）：学術交流協定を締結している海外関係学協会からの招待講演。

■9月13日（土）午前

会場	第8会場 (211)	
	R13. 岩石・鉱物の変形と反応	
	座長：水上知行 (1-3), 廣瀬丈洋 (4-7), 大坪 誠 (8-12)	
9:00	9:00	R13-O-1 (招待) ★ 滑り, 回り, 動く粒界が作る岩石組織. 平賀岳彦
	9:30	R13-O-2 動的再結晶斜長石の結晶方位配列の温度依存性. 金川久一・加藤暁之・新井智之・芳野 極・山本啓司
	9:45	R13-O-3★ 下部地殻斑れい岩における高温破碎と粒径依存型クリープ： 地震時変形と地震間変形？. 奥平敬元・Jerabek Petr・Stunitz Holger
	10:00	R13-O-4 スラブ-マントル境界の不均質なスロースリップ挙動を支配する 2種類のアンチゴライト蛇紋岩. 水上知行・横山寛紀・平松良 浩・荒井章司・河原弘和・永治方敬・Wallis Simon
	10:15	R13-O-5★ 地震波異方性モデリングが示す含水前弧マントルの大規模対流 ～琉球弧の例～. 永治方敬・ウォーカー アンドリユー・ウッ キー ジェームズ・ケンダル マイケル・ウォリス サイモン
	10:45	R13-O-6★ 加水・脱水反応に起因するフラクチャー形成：反応による固体 体積変化の影響. 岡本 敦・清水浩之
	11:00	R13-O-7 地殻流体によって引き起こされた岩石破碎現象の解明. 石山沙 耶・安東淳一・KaushikDas・太田泰弘・中井俊一
	11:15	R13-O-8 ナノからミリスケールにおける断層面の形状特性. 岸田実紀・ 溝口一生・高橋美紀・廣瀬丈洋
	11:30	R13-O-9 福島県南東部に発達する井戸沢断層の断層ガウジ—4.11の地震 断層で生成した粉碎粒子の表面積—. 酒井 亨・滝沢 茂
	11:45	R13-O-10 大型二軸岩石摩擦試験で生成されたガウジ：仕事量と粉碎粒子 表面積および摩擦溶融物. 滝沢 茂・福山英一・山下 太・徐 世慶・溝口一生・川方祐則・土田琴世
	12:00	R13-O-11 チャートの中速摩擦実験で形成された断層表面物質の微細構 造. 堤 昭人・三宅 亮
	12:15	R13-O-12★ 長期的な物質・組織変化による断層強度変遷. 大橋聖和

■ MEMO ■

■ MEMO ■

※講演番号は, シンポジウム (S), トピックセッション (T), レギュラーセッション (R) のそれぞれに, ポスター (P) / 口頭 (O) の記号と各セッション内での通し番号を付与しています.
 ※講演要旨とプログラムとで発表題目や著者氏名が異なっている場合, 講演要旨を正しいものとします.
 ※太字氏名: 代表発表者. ★印: ハイライト (本誌 p.(11) を参照). (招待): 招待講演. (招待: 国際): 学術交流協定を締結している海外関係学協会からの招待講演.